

2015年11月16日

報道関係各位

三菱地所株式会社
JXホールディングス株式会社

民間初の取り組みとなる皇居外苑濠水の浄化施設を導入

「大手門タワー・JXビル」竣工

三菱地所株式会社と JX ホールディングス株式会社が「大手町ホトリア」街区において共同で開発を進めてまいりました「大手門タワー・JXビル」が2015年11月16日に竣工しました。

本プロジェクトは、皇居東御苑の出入口である大手門至近に位置する、22階建て・高さ100m・延べ床面積107,500㎡のビルの開発です。

本ビルの地下には民間初の取り組みである、皇居外苑濠の水質改善に寄与する大型貯留槽・高速浄化施設を導入しています。また、国際的なビジネスエリアで活躍する方々を多方面からサポートするため、エリア事業者や来街者の方が幅広く交流し、環境ビジネスを創発する拠点「3×3 Lab Future」やエリア事業者等の健康な活動を支援する環境を提供するコンディショニングセンター「R-body project」を整備します。加えて、電力の自立性を高める信頼性の高い非常用電源の導入や、帰宅困難者受入施設・備蓄倉庫の整備などトップレベルの災害時対策を実現します。

「大手門タワー・JXビル」のオフィスゾーンは、JXグループの本社機能が入居するほか、西村あさひ法律事務所が入居し、竣工時満室で稼働します。地下1階の商業ゾーンは、隣接する大手町パークビルディング（2017年1月竣工予定）の商業ゾーンと合わせて、「ホトリア Shops&Restaurants」として、同ビルとの間に広がる約2,800㎡の緑豊かな広場は「ホトリア広場」として、2017年にランドオープンする予定です。

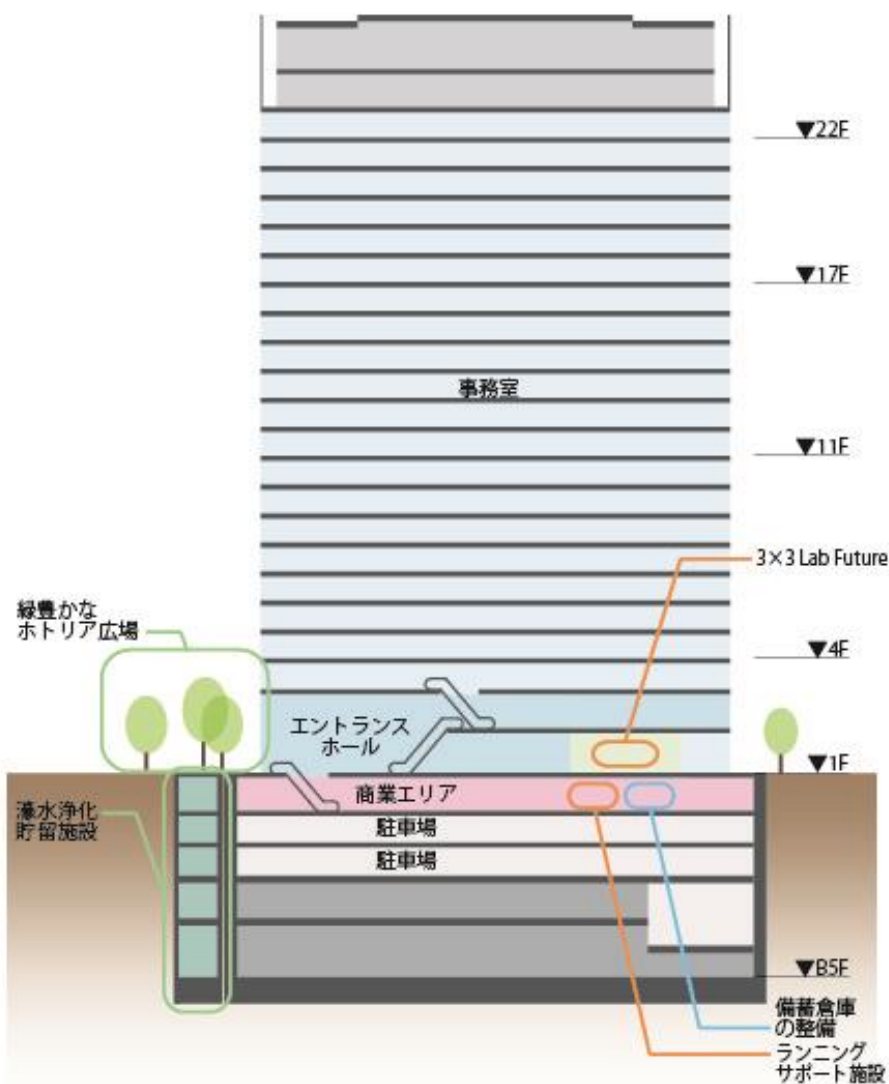
三菱地所は今後、丸の内エリアを核として周辺地域を含めた大きなエリアを東京のビジネス中枢拠点として捉え、都市基盤の強化や機能の拡充を図りつつ、より広い視点でまちづくりを行い、丸の内エリアの更なる発展を目指してまいります。



1. 建物概要

- 所在地 東京都千代田区大手町一丁目1番2号
- 主要用途 事務所・店舗・駐車場等
- 敷地面積 約 6,900 m²
- 延床面積 約 107,500 m²
- 容積率 1400%
- 階数 地下5階、地上22階、塔屋2階
- 建物高さ 約 100m
- 構造 地上：鉄骨造 地下：鉄骨鉄筋コンクリート造
- 設計監理 株式会社三菱地所設計
- 施工 鹿島建設株式会社・株式会社 NIPPO
- 工期 2013年2月20日～2015年11月16日

■断面構成図



2. プロジェクトの特徴

■緑と水に囲まれた心地よい環境を提供

- ・オフィスの2.1m×2.9mの大きな窓ガラス越しには、皇居外苑の豊かな緑と水の景色が広がり、さらにその先の新宿方面まで抜けるパノラマ景観を眺望できます。
- ・皇居外苑の緑とのつながりを意識し、外構の約45%にあたる面積を緑地とし、安らぎ憩う空間を提供します。
- ・緑豊かなホトリア広場にはベンチやテーブルを配置し、就業者等の多様な活動や交流を創出します。
(2017年1月の大手町パークビルディング竣工時、完成予定)



オフィス基準階からの眺望



ホトリア広場完成イメージ

■「省エネ性」×「快適性」を向上させ、先進的なオフィス空間を実現

【環境共生の目標】

- ・環境に配慮した外装や設備を採用・運用することによって、東京都の省エネカルテ（2005年度版）による大規模事務所ビルの平均CO₂排出原単位と比較して、約36%削減（事務所部分）します。また建築環境総合性能評価システム「CASBEE」Sクラスに相当（実施設計段階）します。

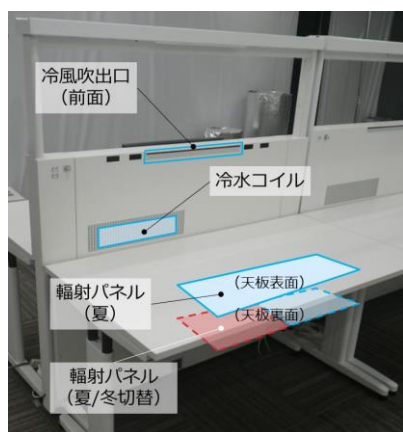
【光の量と質を自動調整するLED照明システム・画像センサー】

- ・光の量（照度）だけでなく質（色温度）を調整できるLED照明を一部導入し、人の1日の生体サイクル（サーカディアン）に合わせ、時間帯により光の量および質を自動変化させることで、就業者の知的生産性向上を目指します。
- ・さらに昼光センサーに加え、画像センサーによる制御を一部導入することで、外の明るさを検知して光の量を調節しながら、就業者の行動状況に合わせてきめ細かくコントロールすることで、一般LED照明と比べて約43%の省エネを目指します。

【輻射空調システム】

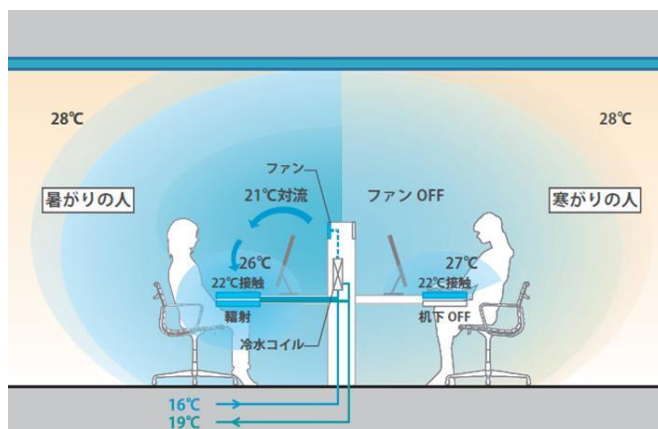
・人と天井の間の熱移動を利用した輻射空調システムを一部導入し、気流感が少なく、静穏で温度ムラの少ない快適なオフィス環境を実現します。さらに、個別冷暖房付デスク*を一部導入することで、就業者個人の好みに合わせた空調環境を創出するとともに、一般空調と比べて約40%の省エネを目指します。

*2015年7月23日発表プレスリリース参照



個別冷暖房付デスク

(青部分は冷房機能、赤部分は暖房機能)

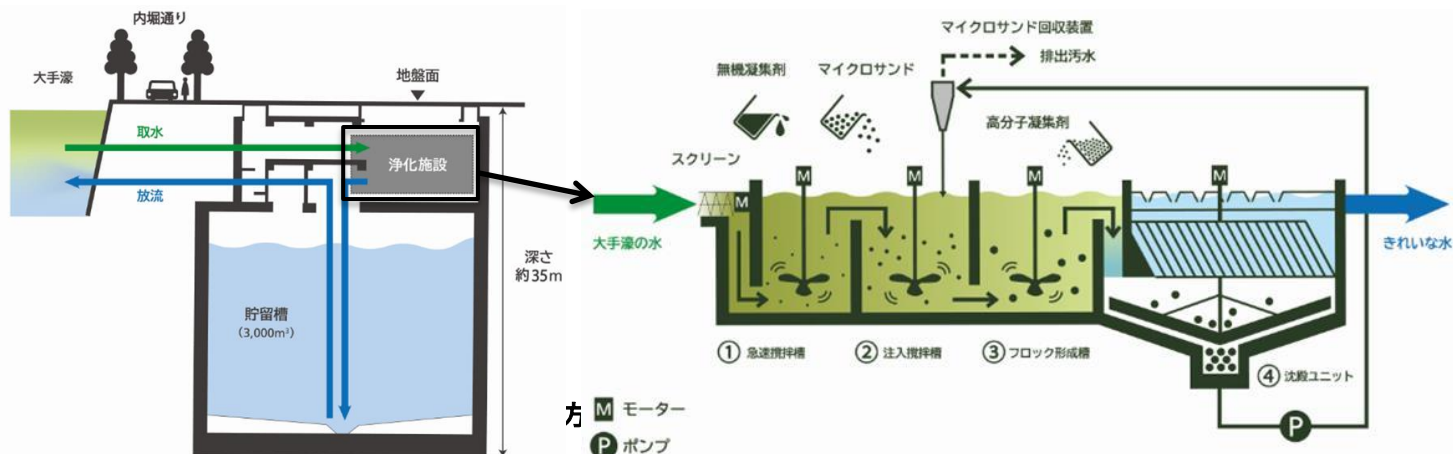


個別空調環境イメージ (夏場のイメージ)

■官民連携で社会問題解決に向けた取り組みとして民間で初めてお濠の浄化施設を導入

【濠水の大型貯留槽・高速浄化施設】

- ・取り組みの背景として、皇居外苑濠において、近年慢性的に水不足等を原因とした水質悪化が進行しています。
- ・本プロジェクトでは皇居外苑濠から取水し、高速（家庭浴槽1杯分0.18m³の水を約5秒）で年間約500,000m³の水量を浄化します。またお濠の水位が低下し淀んでしまうのを避けるべく、お濠へ水を放流するための巨大な貯留槽（約3,000m³、25mプール約6杯分）を地下に備えます。
- ・本施設の運営を通じて、特に大手門周辺の水質改善を図り、皇居外苑の良好な都市環境の再構築に寄与し、丸の内エリア全体の魅力を向上させてまいります。



大手濠と高速浄化・大型貯留施設イメージ

浄化施設の拡大イメージ

■国際的なビジネスエリアで活躍する方々を多方面からサポート

【3×3 Lab Future】

- ・「経済」「社会」「環境」のテーマを通じて幅広く交流しビジネスを創発するための会社でも自宅でもない「サードプレイス」を提供します。また次世代環境技術や丸の内エリアの様々な取り組みも展示・発信します。（2016年春オープン予定）

【コンディショニングセンター「R-body project」】

- ・各企業において就業者の健康維持・増進の重要性が高まっている状況を踏まえ、東京の国際競争力向上を担う就業者の健康な活動を支援する環境を提供します。
- ・運営するのは、国際的トップアスリートのサポート実績が多いトレーナーが所属する「株式会社 R-body project」で、医学的根拠に基づいた正しいトレーニング法で、“Exercise is Medicine”の理念のもと、肩こり腰痛等不定愁訴の症状を抱える就業者の健康をサポートします。
- ・皇居ランナーの利便に資するシャワーブースやロッカールームを備え、英語にも対応したサービスを提供します。（2016年1月オープン予定）

■災害時でも事業継続可能な高いBCP性能と帰宅困難者の安全確保

【耐震性】

- ・三菱地所独自の耐震基準に基づき、現行の新耐震基準では定義されていない震度7クラスの地震においても地震後継続して在館いただけるよう、コアフレーム内に制震ブレースを設置し通常の約1.5倍の耐震性能を確保しています。

【停電対策】

- ・多層な電源供給ルートを確保することで、オフィス機能の維持と業務継続を可能にします。
- ・重油だけでなく、耐震性に優れた中圧導管から供給される中圧ガスを燃料とした発電も可能であるデュアルフューエル型ガスタービン発電機を併用し、災害時の電源供給の安定性を向上させます。
- ・敷地内に大容量（約240m³）のオイルタンクを装備することで、建物内の業務継続のために必要な電力を共用部および専用部へ72時間を目安に供給するとともに、帰宅困難者を支援します。

【水害対策】

- ・荒川決壊時の水位に対応した防潮板を設置することで、ビル内への水の浸入を防止します。
- ・電気室等の重要設備室に防潮扉を設置し、万一ビル内が浸水した場合でも、多重的な止水対策を実現します。

【帰宅困難者対策】

- ・一時待機スペースを、隣接する大手町パークビルと合わせて建物内外に約4,700m²確保するとともに、食料・飲料水等の備蓄、交通情報の提供、マンホールトイレの設置等を通じて、大規模災害時に予想される帰宅困難者を支援します。

■案内図



Dynamic Harmony

Tokyo Marunouchi

三菱地所は2015年8月、丸の内（大手町・丸の内・有楽町・常盤橋地区）エリアのまちづくりコンセプト「Open」「Interactive」「Network」「Diversity」「Sustainable」を踏まえ、まちづくりコンセプトを伝えるワード「Dynamic Harmony」を制定しました。

「あらゆるものをダイナミックに調和させ、新たな価値を生み出す街」丸の内。それは、三菱地所が世界に発信する街のあり方です。